

すばらしき“みえ”

FOR NICE COMMUNICATION

2024.8

241号

■特集／三重のふるさと体験

●いま、グループネット／神津佐啓発会 ●みえを歩こう／度会郡玉城町 国東山周辺



三重のふるさと体験

南北に長い三重県では、地域ごとに変化に富んだ美しい景観が見られ、それぞれの自然に育まれた恵みも豊富にあります。

また、悠久の歴史の中で培われた文化や工芸品も多種多彩にあり、地域を愛する人々によつて現代に受け継がれています。

今回は、三重県ならではの自然や文化・工芸品作りなどを楽しめる施設を6か所ご紹介します。『ふるさと』三重を体験してみたいかがでしょうか。

*各体験施設の営業日時・料金・予約方法や受け入れ人数などには違いがあり、状況に応じて延期・休止する場合があります。事前に必ずご確認ください。

取材・文：中村真由美・中村元美

堀口裕世

撮影……梅川紀彦・尾之内孝昭
中村元美

ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

「いもの 鑄物の街」桑名で、本格的な鑄物作り

CASTER HOME

【桑名市安永】

旧東海道の宿場町、桑名藩の城下町として賑わった桑名は、「鑄物の街」としても知られます。鑄物とは、高温で溶かした金属を砂などで作った型の空洞部分に流し込み、冷やして固めた製品のこと。今でも市街地周辺を散策すれば、桑名宗社（通称・春日神社）の青銅の鳥居や、鑄物発展の基礎を築いた本多忠勝の銅像、カラフルなマンホール蓋など、数々の鑄物に出合えます。

市内に存在する鑄物関連企業の中で、「大洋産業株式会社」（影山 彰久代表取



「CASTER HOME」外観



木枠の中に隙間なく砂を詰めていく



完成した歯車型のコースター



藤井 淳さん



鈴木 奈央さん

締役）は、上下水道用の鑄物製品を中心に、鑄造から組立まで一貫生産。高い技術力には定評があります。昨年6月、同社の本社隣に県内初の鑄造体験工房「CASTER HOME」が誕生しました。月に数回程度、箸置きや小皿などの鑄物作り教室が開催されていると聞き、スタジオリッシュな外観の工房内に入ると、笑顔で出迎えてくれたのは、鑄造部注湯課係長で鑄造体験工房Pリーダーの藤井淳さんと、経営企画部HRブランドینگ課主任の鈴木奈央さん。この日は2人の指導で、コースター作りを体験。木枠の中に置いた歯車型コースターのパーツの上に細かな砂をかけていき、丁寧に詰めていきます。分かりやすい説明に従って作業を進めていくと、いつしか夢中に。子どもから大人まで「砂遊びしているみたい!」と、喜ぶというの納得です。砂をしっかりと固めた後は、パツを取り除き、空洞部分に溶かしたスズを流し込みます。温度が230度と高温のため、この作業だけはプロに任せます。5分ほど待つと周囲の砂を外すと、銀色のコースターが姿を現しました。ここまで要した時間は1時間程度。同工房では、9月21日（土）に通常開催の手作り体験教室を予定しています。この機会に、桑名が誇る鑄物作りに挑戦してみたいかがでしょうか。

お問い合わせ

「大洋産業株式会社」

TEL 0594-22-6792

● 鑄造体験

TEL 090-6220-9688

自然共生型のアウトドアパークで、森の香りと冒険を満喫 フォレストアドベンチャー！ 湯の山 〔三重郡菰野町〕



樹上に設置された遊具「クロッシングウォール」に挑戦

なだらかな稜線を描く鈴鹿の山並みは、北勢地域ゆかりの人々にとって馴染み深い風景といえます。麓に位置する菰野町内には、1300年の歴史を有する湯の山温泉をはじめとして、キャンプ場などの自然体験スポットが揃い、四季折々に多くの人々が訪れます。

平成31(2019)年3月、町内に新たに誕生したのが、フランス生まれのアウトドアパーク「フォ

レストアドベンチャー・湯の山」です。風薫るころに同パークを訪ねると、入口に到着してすぐに、スギやヒノキの香りに気が付きました。見上げるほどの高さの木々の間からは陽の光が降り注ぎ、明るく開放感があります。視線を上に向けると、幾筋ものワイヤーロープと遊具が見えました。



名波 祐希さん

「ワイヤーロープが樹木の成長を阻害しないように、木製の杭で保護してありますよ」と話すのは、同パークを運営する「株式会社森の香り」(大森ユキト代表取締役)の広報、名波祐希さん。名波さんからは、パーク内では、専門家の指導に従って間伐・整備していることなども教わりました。自然との共生や森の新たな価値を見出すことを理念としている同社では、企業研修や修学旅行などの団体向けに「自然体験プログラム」も積極的に受け付けています。

参加者は、初対面同士であっても、自然の中で簡単なゲームなどを体験することで、連帯感や信頼感を高めていくのだと伺いました。

名波さんのお話の後は、実際に体験します。ハーネスの着用を済ませてから、セーフティブリーフィング(安全講習)を受け、用具の使い方や注意点をしっかりと確認します。その後、練習用コースを経て実際のコースへ。約2000平方メートルの広さのパーク内には、大きくわけて体験時間約120分の「アドベンチャーコース」(要予約)と、約30分の「ジップトリップコース」の2種類がある。

り、前者にはさらに4種類、後者には2種類のコースがあります。また、それぞれに身長や体重などの利用条件がありますが、ファミリーからカップル、シニア世代まで、体力や時間に応じて選ぶことが可能です。この日は、数種類の遊具に挑戦。最初は緊張して、名波さんのように颯爽と進むことはできませんでしたが、慣れてくるとロープから手を放すこともできるようになりました。最後に名波さんと手をつないで、約100メートルの距離を滑り降りる「ダブルジップスライド」では、体が浮いた感じがして爽快な気分になりました。

7月下旬、同パークは、隣接する里山放置林と合わせて「アドベンチャーパークオドルの森」に生まれ変わりました。里山放置林は、環境に優しい森に整備され、新たに森の中を駆け抜ける「カモシカバギー」の運転ができるようになりました。なお、「オドル」とはラテン語で香りを意味します。

森の香りあふれるパークは、これからも自然とともに成長し続けることでしょう。

お問い合わせ

「フォレストアドベンチャー・湯の山」
TEL 059-340-7739



「フォレストアドベンチャー・湯の山」入口



「自然体験プログラム」※



自然との一体感を味わえる



子どもも楽しめる「ジップスライド」※



「ダブルジップスライド」※

魅せるファクトリーで、進化した萬古焼土鍋の製造工程を見学・体験

中村製作所 オープンファクトリー

【四日市市下さやの町】



「釉薬漬け込み」体験をする参加者

土鍋・急須・花器…。四日市市を中心とした周辺地域で作られる萬古焼は、魅力あふれる伝統工芸品であると同時に、私たちの暮らしに身近な存在です。中でも、全国シェアの80パーセント以上を占める土鍋は、直火にかけても十分に耐え得る耐熱性と保温性の高さが特徴。冬の風物詩ともいえる鍋料理に欠かせない調理器具となっています。

平成30(2018)年、「株式会社 MOLA TURA」が販売開始した「ベストポット」は、萬古焼土鍋の本体と鋳物製の蓋との隙間をできる限りなくしたことで、蓄熱調理や

無水調理を可能にした蓄熱調理器です。実現できたのは、親会社である「株式会社 中村製作所」(山添 卓也代表取締役社長)の技術力。宇宙産業の部品加工にも携わる高度な切削技術が、萬古焼土鍋の特徴を進化させることに成功したのです。

昨年6月、同社の自社工場の一画にオープンした「中村製作所オープンファクトリー」は、従来の閉ざされたイメージを払拭して、魅せる場所をめざした町工場です。広い工場内に足を踏み入れると、まず目を引くのが精密機械。異空間に迷い込んだ感覚



工場内の様子

(右側に精密機械、左側2階がカフェ)



「中村製作所 オープンファクトリー」外観

になりました。2階にはカフェが併設され、「ベストポット」で調理したご飯を味わえる「けずりたてとろろ土鍋ご飯セット」や「四日市カレー(とんてき付き)セット」などの料理をはじめとして、豊富な種類のスイーツを味わうことができます。機械を見下ろしながらの食事は、格別な味がしました。

スタッフに声を掛ければ、無料で工場内を見学することも可能ですが、月に1回程度のペースで工場見学ツアー(1か月前に要予約)が開催されていると伺い、参加することに。内容は随時変わりますが、この日は「ベストポット」で炊いた、ご飯と肉じゃがの試食も実施。MOLA TURAチームリーダーの石田 琢真(たくま)さんの丁寧な説明を聞いた後、まずは調理を開始します。2つの「ベストポット」

にそれぞれの食材を入れて沸騰するまで待った後は火を止めて、そのままにし



石田 琢真さん

す。同ポットが蓄えた熱でじんわりコトコト調理している間に工場内見学へ。「圧力鑄込み成型」や「素焼き」などを経て、「切削」に至るまでの各工程を間近に見ることができました。途中、突起部分を削る「バリ取り」や「釉薬漬け込み」は体験も可能。職人が手際よく釉薬に漬けた様子を見学した後、体験した参加者からは「ムラになっちゃった」「難しいね」との感想が聞けました。機械の技術と職人技が融合した結果が「ベストポット」なのだと思感した後は、試食です。それぞれの蓋を開けた途端に「ご飯の粒が立ってる!」「肉じゃがもおいしいぞう」と、感嘆の声が上がりました。口にすると、ご飯の旨味を味わうことができた上に、肉じゃがの具材のジャガイモやニンジンなどが芯まで味が染みているのがわかりました。また、新ブランド「レンジスター」による煮魚料理も試食でき、大満足の時間を過ごせました。



「バリ取り」体験



「圧力鑄込み成型」で成型された「ベストポット」



「レンジスター」で調理した煮魚料理



味がしっかり染み込んだ、肉じゃが

なお、工場内では「ベストポット」を手にとって、重さや形などを確認することが可能です。一度、訪ねてみてはいかがでしょうか。

お問い合わせ

「中村製作所オープンファクトリー」
(不定休)

TEL 059-329-6777

平安時代の「みやび」を気軽に

いつきのみや歴史体験館

【明和町齋宮】



愛子さまも体験された貝覆い。
対(ついで)の貝を探すのはかなり難しい。



敬宮愛子内親王殿下が実際に合わせた蛤

昔、伊勢神宮には、神さまに齋く(お祀りする・仕える)皇女・齋王(神宮では齋宮へさいぐう・いつきのみやともいう)がいました。天皇一人に対して一人、未婚の皇女が選ばれるという決まりで、こ

の齋王の住んだ場所を齋宮といひ、現在の地名にもつながっています。広大な敷地には、齋王の住む「内院」や齋宮寮といわれる役所がある「外院」などがあり、たくさんの人々が暮

らしていました。天皇が替わられる度に、新たに齋王に選ばれた皇女とそれに従う大勢の女官や役人たちが、華やかな列を成して都からこの地へと来たのです。これによって齋宮は、神に仕える皇女の暮らす神聖さと、都さながらの雅やかな文化の共存する特別な場所となりました。この齋王の制度は、飛鳥時代から鎌倉・南北朝時代までの約660年にわたって続いたと言います。

「いつきのみや歴史体験館」は、この齋宮の地ならではの平安時代の文化を身近に体験できる場所です。スタッフの出橋岬さんのご案内で館内を見学すると、落ち着いた中に清々しい雰囲気漂っています。「平安時代の『寝殿造り』や古代の役所をイメージし、三重県産のスギとヒノキを用い、釘などを使わない伝統技法で建てられました」と出橋さん。壁



出橋 岬さん

の写真を指して、「今春、内親王の愛子さまがいらしたことや、今年のNHK大河ドラマが平安時代を舞台としていることから来館される方が増えていきます」。古い文化を伝えるとともに、ホットな話題のスポットでもあるようです。

ここでは、常設の貝覆いや盤双六、蹴鞠、浅沓、小桂などは無料で体験できます。まずは盤双六に挑戦。「遊び方は何通りもあるのですが、昔はこれに賭け

人の気持ちが分かります。続いて、小桂を羽織らせてもらおうと、当時の貴族女性の普段着とはいふものの、華やかな色柄ですつしりと重みがあり、長い裾や袖も現代人にとっては非日常の感覚。子ども用の装束もあり、親子で着用して写真撮影をする来館者も多いそうです。



豪華な装束で気持ちは平安貴族※

す。まずは盤双六に挑戦。「遊び方は何通りもあるのですが、昔はこれに賭けを行って夢中になってしまふ人が多く、何度も禁止令が出されたほどでした」との言葉通り、ルールを教えてもらいながらやってみると面白く、夢中になる平安

機織り体験や土器作りなど有料で申し込みの必要な体験も多数ありますが、中でも人気があるのは平安装束試着体験。豪華な十二単でお姫様の気分になれます。最近では、プロのカメラマンやメイクさんに依頼するウェディングプランやフォトプランを選ぶカップルも増

えているそうです。

『源氏物語』や『伊勢物語』『枕草子』などの登場人物がぐっと身近に感じられる体験館です。

お問い合わせ

「いつきのみや歴史体験館」
TEL 0596-15213890



齋王の乗り物・葱華輦(そうかれん)がお出迎え



盤双六は頭を使うゲーム



浅沓は見かけよりも歩きやすい※



「十二単」の一部である小桂を着用

※印の写真は取材先から提供していただきました

自分だけの小さな庭を飾って植物に癒される時間を

おかげ横丁 伊勢路栽苑

【伊勢市宇治中之切町】



体験講師から丁寧に教わる苔玉作りの体験

伊勢神宮内宮前、おはらい町通りの中程に広がる「おかげ横丁」は、江戸から明治期にかけての伊勢路の建築物が移築・



「伊勢路栽苑」

しめる絵付け体験や「おかげ犬」にちなんだ愛犬参加型の体験のほか、気軽に緑を取り入れることができる、苔の体験が人気です。メニューは苔玉作り、苔盆栽作り、それと苔テラリウム作りの3つがあり、苔玉作りにチャレンジする様子を見せていただきました。

まずは好きな植物の苗と皿を選びます。常緑樹やシダ類などたくさんある苗が用意されています。「サクラやウメなどの花物もありますし、モミジなど紅葉するものを選ばれる方も多いですね。山に生える植物から種をとって育てた実生苗もあります。あまり流通しない貴重なもので、ヒメシヤラやクマシデ、ウメモドキなどです」と体験講師の小滝健太郎さんから苗の説明を受けます。工程の一つひとつを、丁寧に指導してくれるので、初めてでも趣のある作品を作ることができます。

ケースから取



小滝 健太郎さん

中に苔玉ごと浸けて2、3分置けば中までしっかり水がいき渡ります。乾燥にだけ気をつけて、またあまり水をやりすぎないようにすれば難しくありません」と小滝さん。室内で植物の緑に癒され、また紅葉は葉っぱの色が変化するので、四季の移ろいを感じることができ、気軽に和風庭園の風情が味わえます。

「伊勢路栽苑」の体験コーナーは充実しています。「色遣いが思ってたよりも難しいですね」と絵付け体験をしていたご夫婦。絵の具を使ったのは久しぶりのようです。「お子様も簡単にできる体験も用意していますし、熊野の天然石、那智黒石の磨き体験で箸置きなどを作ったり、

また節分やひな祭りなどの節句に合わせ、伊勢型紙を使ったオリジナルのタペストリーも作れます」とおかげ横丁広報担当の池田 絢子さん。生地を型染めし、自分好みの色合いに仕上げられるので、季節ごとのインテリアに使えるそうです。夢中になれる体験がさまざまに用意され、好奇心が満たされる楽しい時間が過ごせます。



池田 絢子さん

お問い合わせ

「伊勢路栽苑」

TEL 0596-12313077

自宅へ持ち帰ったあとは、明るさと風通し、そして水やりに注意すればよいとのこと。「夏場は毎日、水の



苗を土ごとガーゼで包む



バランスよく形の整った苔玉



会社のグループ旅行で苔玉作り



貯金箱にもなる招き猫の絵付け



招き猫ポットの絵付けとミニプランツ作り

アクアステーション

尾鷲市古江町



中庭にある深層水のタッチプール

メートルから汲み上げ、1日の取水能力は2885トンです。海洋深層水は水深200メートル以上深い場所において、太陽光が届かず、水温が急激に冷えた層にある海水のことで、海水の約95パーセントを占めています。表層の海水と混ざらない深さにあり、低温安定性・富栄養性・清浄性に優れているという特性を持ち、それを活かして水産分野をはじめ、食品・健康・美容・医療・エネルギー・環境・農業など、多くの分野で活用されています。

尾鷲市古江町の国道311号沿いにある「アクアステーション」は海洋深層水の取水施設。三木^{みき}埼^{さき}沖の水深415

「アクアステーション」では「みえ尾鷲海洋深層水」の原水と脱塩処理した計5種類の深層水が提供されていて、企業だ

けでなく、家庭用に炊飯やコーヒーなどの飲料の生活用水としても使うことができます。また大口分水では、活魚運搬のため大きなトラックが給水しています。深層水と表層水は見た目の違いこそありませんが、表層水は夏場に水温が25度を超えるのに対して、深層水は一年を通して14度程度。運搬の水代を抑えることができ、また太陽光が届かない菌のない水であるため、鮮度保持が全く違うようです。

「アクアステーション」の総合交流施設は、尾鷲ヒノキが使われた寛ぎのスペースで、深層水淡水の試飲ができます。館内には取水方法や設備など、海洋深層水に関することが学べるようパネルを展示。また木育ステーションのおもちゃ



「アクアステーション」

やヒノキボールプールも設置され、中庭には海洋深層水のタッチプールがあり、イベント開催時には子どもたちがはしゃぐ賑やかな光景となります。

深層水を身近に感じる体験として「メダカアクアリウム」があります。小さな瓶に海洋深層水のカルマグ水や淡水を汲み入れ、水槽からメダカをすくい上げ、砂やタイル、ビー玉などを入れて水槽を作ります。

もう一つの常設体験が「宝さがし」です。砂の中から鉱石をすくい、気に入ったものを5個まで持ち帰れます。「砂を触っていることでリラクセスできるのか、長時間遊んでいるお子さんいま



淡水の試飲ができる



香りのよいヒノキボールプール



「メダカアクアリウム」



イベント時のワークショップ



伊東 晋也さん

す」とスタッフの伊東 晋也さん。

また「アクアステーション」

では、月に一度、季節に合わせたイベントを実施しています。音楽ライブやヨガ教室を開いたり、キッチンカーも数台並んで家族みんなで満喫できる内容です。「深層水のことを市民はじめ多くの方に知ってもらい、『アクアステーション』へ足を運んでいただくことで海洋深層水の利用率を高めています」と尾鷲市役所海洋深層水推進係の山口 翼さん。端午の節句には鯉のぼりが風に揺れ、お

盆の頃になると提灯が並んだり、幅広い世代に喜んでもらえるよう、工夫を凝らしています。

また尾鷲市向井の入浴施設「夢古道の湯」は、原水を希釈した内風呂のほか、ミストサウナには超軟水の淡水が使われています。保温性・保湿性に優れた海洋療法的な効果が期待でき、一般の温泉にはないさまざまな効果も楽しめるということです。ほかにも深層水を使って干物などで商品化したり、調理に深層水を使ったメニューを提供する飲食店もいくつかあり、市内では「深層水」の幟旗を立ててPRしています。



深層水のお風呂「夢古道の湯」※

お問い合わせ

「アクアステーション」

TEL 0597-127-8080
尾鷲市役所商工観光課海洋深層水推進係
TEL 0597-123-8133

※印の写真は取材先から提供していただきました

神津佐啓発会

こんさ

海と山の自然が織りなす風光明媚な南伊勢町で、五ヶ所湾に面する神津佐地区。若者7人が「神津佐活性化グループ」を結成したのは、平成15(2003)年のことです。30人以上の賛同者を集めて活動を始め、翌年には現在の「神津佐啓発会」に改称して正式に発足。地域に伝わる祭りや風習を、若い世代が地域の魅力を楽しみながら受け継いでいます。



会長 森井 一晴さん

お問い合わせ

森井 一晴さん
(森井建設工業)
南伊勢町神津佐1158-4
TEL 0599-66-1061

昭和30(1955)年の南勢町合併前、神津佐地区は神原村と呼ばれ、子どもたちは啓発小学校に通いました。今後、町の合併が繰り返されたとしても、その名が消されぬよう、会の名称に「啓発」を入れ、神津佐在住の若い世代が、地域を盛り上げていくことをテーマに活動を開始。「神津佐啓発会」の現会長を務める森井一晴さんと創設メンバーの初代会長・徳田 真宏さんにお話を伺いました。

——発足から20年以上が経ちました。長い活動ですね。

徳田：発足のきっかけは幼かった頃に見た祭りや行事などの楽しい思い出を、

次の世代にも残していきたいとの考えからでした。活動の根底にあるのは「神津佐が好き」という気持ち。会なので規約などがありますが、ここに住んでいる人なら活動は当たり前のこととして、関わってくれています。

森井：私たちが活動することで、子どもたちにも神津佐のよさを感じてもらい、ここに住んでよかったという気持ち根付いて、想いを繋いでくれたらと願っています。伝統的なものを昔のように楽しく盛り上げることを目的にしているの、地区行事への参加が中心です。

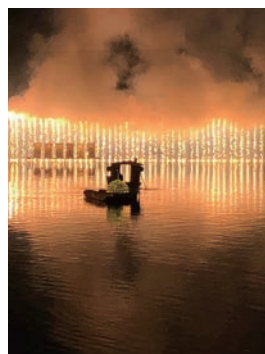
——神津佐の世帯数はそれほど変化はないですが、高齢化は進んでいますね。

にもなっています。

徳田：小学生の頃は盆踊りで仮装踊りがあり、工夫を凝らした人には地区から賞金が出るなど盛り上がりがありました。人が少なくなった盆踊りを盛り上げるには仮装踊りの復活だと思い、楽しんでやっています。そうすると子どもたちや高齢者も参加してくれるようになりました。それと津波への心得を唄った神津佐独自の音頭「津波くどき」を継承

していこうと勉強中です。森井：この地で嘉永7(安政元)(1854)年に安政の大地震が起こり、その時の地震の津波に対する心得として村の人が書き残していて、その古文書を読み解き、いつからか盆行事の時に披露すること、みんなに伝わってきたんです。その先人の想いは繋いでいかなければなりません。

——夏の行事以外にはどんな活動を。



仕掛け花火の「ナイアガラ」※



神津佐川に流す灯籠※



年末年始に飾る大きな門松※



町を彩るイルミネーション※



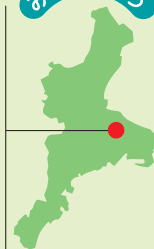
メンバーは仕事もさまざまな業種が集まる※

ましたし、今では移住者の方も会に入ってくれています。人が町をつくり、町が人を作るという循環が、自然とできてきているように思います。

——現在の会員は31人。夫婦で参加する家庭もあるようです。幼い頃に感じた祭りや行事の楽しさを取り戻し、子どもたちにもそれが伝わり、世代を超えた交流が地域のコミュニティを支えています。

インタビュー……中村 元美

※印の写真は取材先から提供していただきました



田園風景から歴史深い折りの道へ

度会郡玉城町

国束山周辺

度会郡の玉城町と度会町の境界線上にある国束山は、標高414メートル。頂上をめざすルートはいくつかありますが、今回は、玉城町原にある「アスピア玉城」から出発し、頂上を経て、再びスタート地点に戻ります。

国束山は、古い由緒を持つ国束寺が^{くづか}あった場所。頂上付近には大きな伽藍^{がらん}の跡が残り、白山社なども祀られています。広々とした田園風景から山に入り、岩や木々の間を曲がりながら続く細道を頂上へ、古くからの祈りの道を歩く変化の大きいコースです。ご案内いただいたのは、国束寺のご住職、土面 信順さん。現在、お寺は度会町側の国束山南麓に移転していますが、折を見て旧地の整備などを通しておられるとのこと。長い歴史の物語をはじめ、興味深いお話を伺いました。

取材・文：堀口裕世



「アスピア玉城」内「ふるさと味工房 アグリ」



広い「お花畑」を見ながらスタート



「弘法石」。「海」などの文字が読み取れる



「と石」。谷水が多いときは中央の水が流れる

「アスピア玉城」の花畑を通して

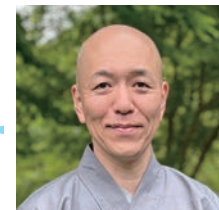
玉城町原にある「アスピア玉城」は「弘法温泉」などで知られる複合施設。今回はここからスタートし、すぐ西側にある道へ入り、南に向かいます。右手は広々とした田園風景。この辺りは、里山の花畑プロジェクトの舞台で、季節によつてはひまわりやコスモスなどが咲き乱れる風景が見られます。

前方に見える山並みの右から二つ目がめざす山頂。しばらくは舗装された道を進みます。伊勢自動車道の下をくぐると道が細くなり、二つの池の間を通ります。池を過ぎると、道に沿ってせせらぎが流れ、たくさんさんのサワガニが出迎えてくれます。「地元では百瀬川と呼ばれる小川で、新池に流れ込みます。池から外城田川^{とくだがわ}に向かって流れる川は国束川と呼ばれています」と土面さん。川が小さな滝になって流れの方向を変える地点で、道は川を越え山へと入っていきます。

「弘法石」と石を過ぎて山中へ

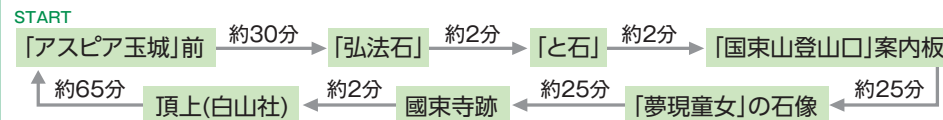
川を渡ってすぐにあるのは、苔むしたお堂の中の「弘法石」。「当寺に、弘法大師空海が国束寺に参詣し弁財天堂を勧進したという由緒書きが残されており、後に村人が『空海敬白』の文字を彫った碑を建てたのですが、川に沈んで分からなくなっていました。これは平成4（1992）年に約200年ぶりに発見されたものです。この石が引き上げられたのと同時期に温泉が見つかったことから『弘法温泉』の名の由来にもなっているんですよ」と、平安初期から現代にまで続く物語を教えてくださいました。

少し進むと、平らな巨石の中央に直線的なくぼみのある「と石」と呼ばれる石



国束寺住職の土面 信順さん

■ 行程図 所要時間／約3時間 ※所要時間は、おおよその目安です。





旧國東寺跡。お堂の礎石が並んでいる



かつての國東寺。大きな建物が連なっていた※



現在の國東寺(度会郡度会町平生)



頂上付近にはさまざまな石像や石標が



白山社

山寺というイメージとは違い、大きな伽藍が並んでいたことがしのばれる広い

國東寺跡を経て頂上へ

しばらく進むと國東寺跡に出ます。

の町並みを見渡すことができる場所に出ます。この辺りからは傾斜がぐっと緩やかになり、左側の木々の間に四角い石が点々と落ちて見えます。「寺を移転する際に、ここから麓に向かってケールを渡し、木材や礎石を運んだのですが、そのとき落ちてしまった石です。こうして見ると結構な数の石が落ちていきますね。」

空間です。「およそ1400年前、聖徳太子が皇大神宮のお告げを聞いて開かれたといわれ、弘法大師が国東山を『胎藏界曼荼羅の山』と称賛されたことから、密教の修行の場として栄えました。最盛期には六院一三坊の大寺であったそうです。戦国時代に戦火で焼かれたり、江戸時代の天台宗の寺院としての再興、明治時代の神仏分離令と歴史の荒波を越えてきましたが、第二次世界大戦後の農地改革などにより山頂での寺院経営が困難になり、ご本尊や観音堂などは大阪の四天王寺に、その他のお堂などは度会町に移しました」。

問 國東寺

ここから頂上までは2分ほど。白山社などが祀られています。「伊勢の方を向いておられるでしょう」と土面さん。ここからは、度会町の方が見下ろせます。白山社に手を合わせたら、同じ道を下りましょう。滑りやすい石などもありますから、気を付けてゆっくり下山してください。帰りには「弘法温泉」で汗を流し、地元のおいしいものを食べるのもお勧めです。

TEL 0596-62-1018

「ふるさと味工房 アグリ」

TEL 0596-58-8686

*アスレチック玉城内の「ふるさと味工房アグリ」では、随時 国東山ハイキングツアーが行われています。

つづら折れの参道を

ここから、急な斜面を右へ左へと折れ曲がる山道が続きます。「国東山は、釣り鐘のような形で、はじめは急傾斜ですが、やがてなだらかになります」との言

人々の想いの力を感じます。

「これより十丁」の「夢現童女」

傾斜が少しゆるやかになった辺りで「夢現童女」の小さな石像に出合います。

彫られている「これより十丁」は頂上までの距離。「以前は寺から麓まで、一丁(109メートル)ごとに石像が祀られていました。昭和28(1953)年に寺を移設したのですが、その後、これらの石像の多くも移しました」。

ここから少し上がると隣の山に続く分かれ道があり、70分ほどの山公園に行けます。近くに「左上岩屋道」という石標と分岐点もありますが、こちらは危険なので、慣れない人は避けた方がよいとのこと。

さらに少し上ると、木の間から玉城町



登山口の看板から山道へ



急傾斜を右へ左へ曲がりながら上る



「夢現童女」の石像



木の間から玉城方面を見下ろす

守りたい、いのち 三重県指定希少野生動植物種

絶滅のおそれのある動植物種のうち、特に保護する必要がある種で、
三重県指定希少野生動植物種として指定している野生動植物を紹介します。



オオタニワタリ

シダ植物チャセンシダ科

◆ 分布 ◆
東紀州

紀伊半島を分布北限とする暖地性のシダ。やや陰湿な山林中の樹幹
や岩上に生育する。園芸用採集と森林伐採が減少の主要因である。

資料・写真提供：三重県 農林水産部 みどり共生推進課 野生生物班

■ お問い合わせ

三重県 農林水産部 みどり共生推進課 野生生物班

TEL: 059-224-2578 メールアドレス: midori@pref.mie.lg.jp

*三重県指定希少野生動植物種を県ホームページに準じて紹介しています。

*県ホームページで他の野生動植物種をご覧になれます。

表紙写真 「アクアステーション」(尾鷲市古江町)

百五銀行のホームページで、「すばらしきみえ」のバックナンバーをご覧いただけます。
<https://www.hyakugo.co.jp/mie/>